

名和晃平 Kohei Nawa (日本)



アートプログラム参加作品「PixCell—Sacred Beast」 ピクスセル セイクリッド ビースト 会場：グローバル・コモン2

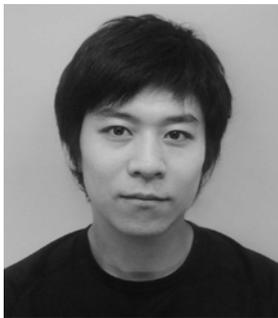
中央に池を配置し、周辺を林に囲まれるという自然の豊かさが感じられるグローバル・コモン2には、南北アメリカのパビリオンが並びます。その池の近くに設置されるのが、名和晃平の「PixCell—Sacred Beast」です。



コモン2会場図

名和は、私たちが普段「見て」「触って」「感じて」いる物質に対する人間の感覚の不確かさを作品の起点にしようとしています。人が感じているのは、目で見える形状や色、あるいは触れた感覚によるところが大きく、本質はいったいどこにあるのかとても曖昧です。彼が長く制作して来た「PixCell シリーズ」は、果物やぬいぐるみなど極めて日常的なものを小さなガラスビーズで覆う作品。何が中に入っているかはわかっても、ガラスビーズに包まれた瞬間、視覚的にも触覚的にもイメージは突如として変化してしまいます。

彼は、こういった作品を通じ、人間を取り囲む万物のありようを本質から問い直します。今回は、人々が古来から崇めてきたトラやサンショウウオなどの「神獣」を題材とし、目に見えず現れず、幸をもたらすとされてきた動物たちと人間との対話を形にしていきます。



名和晃平

名和晃平 Kohei Nawa

1975年 大阪府に生まれる

2003年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程彫刻専攻修了

ガラスビーズやプリズムボックス、グルーなどを用いた作品で、現在注目の作家。1998年、京都市立芸術大学制作展「少年と神獣」同窓会奨励賞、2003年、京都府美術工芸新鋭選抜展 最優秀賞、キリンアートアワード2003 奨励賞受賞。2005年、渡米予定。

[過去の作品]



PixCell[Zebra]／2003

光を分散化させるプリズムシートが貼られたアクリルボックスを使ったシリーズもの。ひとつのものに対して、多方向からの像が浮かび上がる。



Scum Spectrum／2000

Cellに閉じこもる要素があふれ出て、表皮が膨張していく様子を、発泡ポリウレタンで表現。